

令和6年度「高砂の魅力再発見プロジェクト」

主催 高砂市民センター

共催 宮城野区中央市民センター

共催 鶴巻小学校社会学級

高砂の地形を再発見！

～起こりうる自然災害に備えるために～

普段、何気なく歩いている道のわずかな傾斜、わずかな土地の高低差から過去におきた災害が推測できることがあります。高砂地域で洪水時、川に運ばれてきた土砂が堆積してできた「自然堤防」の痕跡がいくつかあることがわかりました。なぜ道が不自然に曲がっているのか、なぜ昔の人はここに家を建てたのかなど先人たちの知恵を学び地形を知ること、ハザードマップだけではわからない今後起こりうる災害リスクとその備えについて考えましょう。

日時： **令和6年10月6日（日）**
13：00～15：00

場所： 高砂市民センター ホール

講師： 東北福祉大学 准教授
水本 匡起（みずもと ただき）氏

定員： どなたでも 100名

申込： 9月7日（土）から電話または窓口へ

お申し込み・お問い合わせ

高砂市民センター TEL022-258-1010



《講師プロフィール》

水本 匡起（みずもと ただき）氏

東北福祉大学 健康科学部 医療経営管理学科 准教授

東北大学大学院 理学研究科 地学専攻博士課程修了。理学博士。

《研究分野を表すキーワード》

地形学、地域防災学、自然災害、ハザードマップ、活断層、内陸地震、防災教育、自然地理学

《講師紹介文》

2017年に日本の主要活断層に認定された『身延断層』の発見者。地形学的手法を用いて、活断層の動きを解明する研究を行っている。近年は、地形の成り立ちに関する知見を取り入れた『新しいハザードマップの在り方』に関する研究や、地域固有の歴史・民俗・文化を融合した『新たな地域防災の構築』に関する研究にも精力的に取り組んでいる。北海道から沖縄まで、毎年多数の地域から防災講義や講演会の依頼を受け、事前の綿密な現地調査結果を踏まえて、その地域に則した地形環境や生活・文化・歴史に基づく新たな地域防災を提唱し、各地で常に高い評価を得ている。

熱意と愛情溢れる講義は、大学生による授業評価でも毎年トップレベルの授業満足度を博している。趣味は里山の写真を撮ること。Coffee、無線（JO7DNC）、山登り、デイキャンプ。東北地方の日本酒をこよなく愛す。

【メディア関連】 テレビ：NHKニュースおはよう日本、ラジオ：FM東京・JFN制作【未来授業】（防災分野担当）など。その他：雑誌AERA（アエラ：地震関連のインタビュー記事）、各地域の新聞記事など。

《最近の主な研究論文》

（筆頭著者分のみ。インターネットで各論文のタイトルを検索すれば、それぞれの論文を読むことができます。）

- ・『地形情報に基づく大規模宅地造成地における地域防災の手法と実践』（2024年）
- ・『多文化共生に向けた外国人住民を対象とする地域防災の試み』（2024年）
- ・『地域防災力向上を目的とした水害リスク・コミュニケーションの実践的手法』（2023年）
- ・『ハザードマップを補完する既存地形情報の活用とその意義について』（2023年）
- ・『微小変位地形から見た愛子断層の後期更新世以降の断層活動』（2022年）
- ・『地形からみた山間部集落における豪雨時の適切な避難場所について』（2022年）
- ・『洪水ハザードマップにおける地形分類図の意義』（2022年）
- ・『防災を意識しない生活に潜在する豊かな災害文化』（2019年）
- ・『地理総合における防災教育の新たな手法と展開』（2019年）

その他、学術論文および学会発表多数



みずもと ゆりな 作

QRコード



NHKニュース
おはよう日本(約5分)

地形に注目！
地域防災へのアプローチ

スマホのカメラ等で読み込んでください！
https://youtu.be/veKcr_tOwLg

